

D 官民連携による行財政改革！

民間の知恵とリソースを活かした、「オール県民参加」の県政をスタート！

⑲ 大規模組織再編で、県庁マネジメントのスピードをアップ

○政策決定プロセスのスピードアップ

政策立案や情報発信、トップセールスなどを戦略的・機動的に実施

- ・ネットリテラシー推進条例（仮称）（発案から発表まで17日間）
- ・新型インフル等特措法改正要望（発案から大臣要望まで11日間）
- ・微博(Weibo)との協定（Weiboからの提案から締結まで4日間）
- ・愛郷ぐんまプロジェクト（最初の知事協議から予算成立、事業実施まで11日間）
- ・庁議（前年21回→39回、幹部職員との意思疎通を向上）



○デジタルトランスフォーメーション課の新設

- ・オンライン相談窓口の開設、物資供給管理システムの立ち上げなど

○女性管理監督職の人数増加

207人 → 217人（R元→R2）
うち部長 1名 → 3名

24

D 官民連携による行財政改革！

民間の知恵とリソースを活かした、「オール県民参加」の県政をスタート！

⑳ 群馬独自の「ウィズコロナ」/「ポストコロナ」を構想

○自立分散型社会の実現を目指した総合計画の検討



第3回新・総合計画策定懇談会（オンライン）

26

D 官民連携による行財政改革！

民間の知恵とリソースを活かした、「オール県民参加」の県政をスタート！

㉑ 暮らしに密着した「市町村」と県が、一体となって対策を展開

○市町村長との直接対話

- ・CSF対策
- ・新型コロナウイルス感染防止を目的とした学校再開延期要請
- ・小・中学校1人1台PC整備



- 市長会、町村会の会議に積極参加
- 「多文化共生・共創県ぐんま」を共同宣言



25

E 県政の透明化・オープン化！

知事と県民のコミュニケーションを倍増させ、行財政を刷新！

㉒ あらゆる機会を捉え、知事から県民へ情報発信

㉓ 県民を代表する「県議会」との真摯な議論

㉔ 「改革+創造」を旗印に、財政の見直しを熟慮・断行

㉕ 「ガラス張りの県庁」を目指し、知事のガバナンスを強化

㉖ 「自我作古チーム」「政策プレゼン」で、若手からボトムアップで政策を立案

E 県政の透明化・オープン化！

知事と県民のコミュニケーションを倍増させ、行財政を刷新！

②あらゆる機会を捉え、知事から県民へ情報発信

知事記者会見(81回(臨時含む)) 手話同時通訳・YouTubeでのライブ配信も実施



Ask知事! (2回)
第2回は群馬テレビでも中継

直滑降ストリーム(9回)
県政の現状や課題を発信



SNSを活用した情報発信 (知事・G-SNSチーム)

28

E 県政の透明化・オープン化！

知事と県民のコミュニケーションを倍増させ、行財政を刷新！

④「改革+創造」を旗印に、財政の見直しを熟慮・断行

- 中期財政見通しの作成・公表 (R元10月)
行財政改革の必要性を明らかに
- 事業の効果や展望を十分に議論の上、当初予算を編成
思い切った事業見直し等により財政の健全性を確保

財政調整基金	+	37億円	ともに 3年ぶりの減
事業見直し	-	13.6億円	
県債(通常債)発行額 残高	-	164億円 4億円	

(いずれも前年比)

30

E 県政の透明化・オープン化！

知事と県民のコミュニケーションを倍増させ、行財政を刷新！

③県民を代表する「県議会」との真摯な議論

○知事答弁の増加



第2回定例会 知事答弁割合

10% (R元) → 45% (R2)

○県政懇談会

議長と知事の定例意見交換



29

E 県政の透明化・オープン化！

知事と県民のコミュニケーションを倍増させ、行財政を刷新！

⑤「ガラス張りの県庁」を目指し、知事のガバナンスを強化

○群馬モデルによる内部統制の導入

- ・内部統制推進・評価会議の設置
- ・財務、個人情報保護とともに、働きかけへの対応を
県独自に対象として追加
- ・内部統制弁護士チームの設置



内部統制推進・評価会議

31

E 県政の透明化・オープン化！

知事と県民のコミュニケーションを増進させ、行財政を刷新！

② 「自我作古チーム」「政策プレゼン」で、若手からボトムアップで政策を立案

○若手職員が新たな政策を提案する「自我作古チーム」、所属や役職にとらわれずに部局連携事業を提案する「政策プレゼン」により庁内議論や政策立案を活性化



自我作古チーム報告会

中高生の自転車安全対策、校庭の芝生化、オンライン移住相談窓口などを実際に予算化



政策プレゼン

フィルムコミッション活動支援、農泊推進など18項目を予算化